

公益財団法人 檉の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日		令和6年3月14日
② 法人・団体名	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク		
③ 所在地	〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-7-2 タニグチビル2階		
④ 責任者氏名	土屋 匠宇三	(役職名等)	代表理事
⑤ 担当者氏名	皆川 佳菜恵	(役職名等)	本部ボランティア担当

【奨学活動の概要】					
⑥ 助成交付決定番号	R05-026	⑦ 助成金額	148万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	埼玉県における生活困窮世帯の学習支援				
⑩主な実施場所	越谷市・新座市・上尾市・桶川市・北本市・鴻巣市・狭山市・入間市・蓮田市・西部地区合同（東松山市・毛呂山町・鳩山町・越生町・川島町・吉見町・滑川町・嵐山町・ときがわ町・小川町・東秩父村）・北部地区合同（寄居町・長瀬町・美里町）				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

生活困窮世帯の中学3年生を対象に高校入試対策の強化を目的として、自治体からの委託の枠を超えた教室（通称：特別教室）を開催し、のべ618名の子どもが参加した。また、大学受験の浪人生1名に対し、のべ38回支援を行い、ハイレベルな科目指導および面接対策や受験校の選定に関する相談等のきめ細やかな支援を実施した。これらの支援には学習支援員に加え元教員ら有償ボランティアおよび学生を含めた無償ボランティアがのべ478名参加し、受験科目および面接試験等の指導を行った。

その結果、令和6年3月時点で中学校3年生の300名以上が第一志望校に合格した。加えて将来的な高校受験を見据え、中学1・2年生の中にも自ら希望して講習を受講する子どももあり、学習意欲が高まっている様子が窺えた。また、大学受験を目指した浪人生は第一志望の医学部に合格することができた。今後は一部の自治体だけでなく、埼玉県全域の学習教室にて特別教室を開催し、子どもたちの学力と学習意欲の向上に繋げていきたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A×B)	備考・補足
中学生等	618	2	1236	
高校生等	38	3.5	133	大学受験浪人生
大学生等				
学習支援員等	478	2	956	職員およびボランティア
その他				
合 計			2325	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：埼玉県における生活困窮世帯の学習支援

法人・団体名：一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
作成者 氏名：皆川 佳菜恵

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

◆ 目的

学習塾等では受験対策として夏期講習や冬期講習、合宿等が実施されるが、生活困窮世帯では子どもをそれらに通わせるための経済的余裕がないため、一般世帯との情報格差や学力格差につながり高校入試において不利な状況に置かれることが多い。またこれまでの支援経験から、先述のような受験対策の遅れにより、生活困窮世帯の子どもや保護者が将来に対して不安を募らせるケースが多く見られた。以上の理由により、長期休暇を利用した講習や受験が迫った時期に自治体からの委託の枠を超えた追加の学習教室（特別教室）を開催し、子どもの学力向上や生活困窮世帯の不安を軽減する支援を実施した。

◆ 内容

生活困窮世帯の中学校 3 年生を対象に高校入試対策の強化を目的として、自治体からの委託の枠を超えた教室（通称：特別教室）を開催した。主に埼玉県立高校の入試対策の指導を行った。学科試験の対策については、各学習教室に通う子どもの学力や特性に合わせて工夫した。具体的には、職員や元教員らの有償ボランティアが講師をつとめる講座形式（集団指導）と、大学生らの無償ボランティアによる個別指導を組み合わせ実施した。一部の学習教室では中学 1・2 年生も参加の意欲を示したため、途中から中学 1・2 年生も受講の対象とした例もあった。

また当初の目的に加え、予備校に通っていない大学受験の浪人生 1 名についてのべ 38 回支援を実施した。自治体からの委託では学習支援事業の対象は高校卒業までとされていたが、貴財団の助成金により個別のニーズに応じて対象年齢の枠を超えた支援を行うことができた。元高校教員が医学部受験向けのハイレベルな科目指導および面接対策や受験校の選定に関する相談等のきめ細やかな支援を実施した。

2. 実施した奨学活動の詳細

特別教室を埼玉県内 11 カ所にて開催し、のべ 618 名の子どもが参加した。また、特別教室にはのべ 478 名の職員とボランティアが参加した。

◆特別教室実施例

①宿題特別教室	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の提出は内申点に反映され高校入試の合否に影響するため 夏期・冬期休暇中に開催 1対1または1対2でボランティアが個別指導 教材は、自力で終えることができなかった宿題を子どもが持参
②国語特別教室	<ul style="list-style-type: none"> 元高校国語科教員の職員が講師となり、作文講座を実施 講師自身の問題作成経験と採点経験をもとに、入試作文で重視されるポイントを解説 減点対象となる書き方について 入試作文で出題されるデータの読み取り方 実践演習と講師による添削

	<ul style="list-style-type: none"> 作文講座に加え、一部の学習教室では古典分野の現代的仮名遣い等、基礎的な知識に関する講義
③数学特別教室	<ul style="list-style-type: none"> 数学については子どもの学力差が顕著であるため、講義形式ではなく個別で一人ひとりのレベルに合わせた指導を行った 埼玉県立高校入試で毎年出題される単元について、職員や元教員らがプリントを作成し配布した 極端な低学力の子どもに対しては、小学校の内容（四則計算、小数、分数）の復習を行った上で、文字式、方程式、平方根、因数分解、連立方程式、二次方程式等の得点源になる問題だけを抽出して反復練習を行った
④英語特別教室	<ul style="list-style-type: none"> リスニング講座 英作文対策講座 職員、元教員の有償ボランティア、留学経験がある無償の学生ボランティアが連携しポイントを解説した
⑤理科特別教室	<ul style="list-style-type: none"> 入試講座：元教員の有償ボランティアが、入試で出題されやすいポイントと、元素記号・化学式について解説した。 実験教室：理科への関心を高めるために実施した。上尾市と越谷市の学習教室にて幅広く中学 1～3 年生を対象として開催した。上尾特別教室では元教員が講師となり、「光の反射と屈折」「物体と温度」の分野に関連した実験を披露し子どもたちも体験した。また、越谷特別教室では元教員が講師となり、野菜や果物に含まれるビタミンを比較する実験を行った。
⑥社会特別教室	<ul style="list-style-type: none"> 毎年出題される入試問題の解説 六大陸三大洋、地図問題（地図記号・地形図）、雨温図問題 個別指導形式での学習を選択した子どもに対して、元教員が作成したこれらの分野に特化したプリントを配布し、子どもと無償ボランティアと一緒に解いた。
⑦モチベーションアップ講座	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県立高校入試制度の解説 模擬試験質問会 長期休暇中の過ごし方 主要 5 科目の学習計画と学習方法に関する講義 受験に向けた基本的な生活習慣の重要性（早寝早起き、スマートフォンとの付き合い方、勉強に適した環境の確保等）に関する講義
⑧医学部特別講習	<ul style="list-style-type: none"> 元教員の有償ボランティアによるマンツーマンでの指導 共通テスト対策 医学部地域枠入試（指定医療機関で 9 年間勤務することで、奨学金の返済が全額免除される制度）に必要な科目と面接の指導 必要な教材の選定と購入のための支援 受験校の選定に関する相談 受験スケジュール管理のサポート

じっけん 実験してみよう

夏期講習第2弾!

【実験!!】
フルーツ・やさしいに入っている
ビタミンCの量を比べよう!
使うのはなんと・・・
うがい薬の「イソジン」!!
ビタミンCが一番多く入っている
フルーツ・やさしいはどれだ?!

下記の申込み書を教室で提出するか、電話にてお申込みください
参加希望日に合わせてください(優先)

申込み締切: 8/15(水)

日時: () 8/17(木) 13:00~15:00
() 8/18(金) 13:00~15:00

対象: 中学1・2・3年生
場所: 越谷教室

夏期講習 2023夏

第一弾「夏の計算マラソン」
日時: 7/27(木)・7/28(金) 13:00~14:30
場所: 越谷教室 対象: 中学3年生のみ
計算マラソンを好きになる運動です。基礎から応用まで、レベル別のプリントを準備しています。自分のレベルに合ったプリントを、自分のペースで特別に選んでいくことができます。夏休み、計算力アップを目指し!!

第二弾「理科の実験してみよう」
日時: 8/17(木)・8/18(金) 13:00~15:00
場所: 越谷教室 対象: 中学1~3年生
実際に先生で理科の実験をやってみようという企画! 人気問題でも、実験は多く取り上げられています。実験を体験することで、応用に繋がると思います!

参加希望者は、以下の申込み書を教室で提出するか、電話にてご連絡ください。
申込み締切: 7/22(土)

日時	内容	参加しO
7/27(木) 13:00~14:30	【数学】夏の計算マラソン	
7/28(金) 13:00~14:30	【数学】夏の計算マラソン	
8/17(木) 13:00~15:00	【理科】理科の実験してみよう!	
8/18(金) 13:00~15:00	【理科】理科の実験してみよう!	

参加希望者は、以下の申込み書を教室で提出するか、電話にてご連絡ください。
申込み締切: 7/22(土)

日時	内容	参加しO
7/27(木) 13:00~14:30	【数学】夏の計算マラソン	
7/28(金) 13:00~14:30	【数学】夏の計算マラソン	
8/17(木) 13:00~15:00	【理科】理科の実験してみよう!	
8/18(金) 13:00~15:00	【理科】理科の実験してみよう!	

学年: 名前:

夏休み 特別教室

勝負の夏!

<第1回> 7/29(土) 10:00~12:00
夏休みにやるべきこと、5教科の学習の進め方について

<第2回> 8/26(土) 10:00~12:00
9月北原テスト直前対策会(北辰受験しない人も参加OK)

会場: 栗松山教室
アスポート学習支援 坂戸センター

◀◀特別教室チラシ例



▲助成金により購入した教材 (表面)



▲助成金により購入した教材 (裏面に助成表示用シール貼付済み)



▲特別教室（元教員による講座）の様子

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動での支援により、中学校3年生の300名以上が第一志望校に合格した。また、中学1・2年生の中にも自ら希望して講習を受講する子どももあり、受験生向けの特別教室を開催することは早期からの学習意欲の向上に繋がることが窺えた。今後は一部の自治体だけでなく、埼玉県全域の学習教室にて特別教室を開催し、子どもたちの学力と学習意欲の向上に繋げていきたい。なお、一部の子どもについては、受験まで学習教室ではなく家庭訪問による個別学習を選択した。来年度以降は早期から子どもとの信頼関係を構築することで学習教室への参加を促し、一人でも多くの子どもが特別教室へ参加できるよう努めたい。

大学受験の浪人生1名は第一希望の国立大学医学部に合格することができた。今回の支援を通して、高校卒業後の支援の必要性を実感するとともに、高校卒業後も支援を継続することでより貧困の連鎖を断ち切り子どもの自立に繋がることが明らかになった。本ケースのように、生活困窮世帯では大学受験で浪人する場合、経済的な理由で予備校に通うことが難しいことが考えられる。そのため、進学を諦めてやむを得ず就職を選択することや、本ケースと同様にアルバイトで生活費を稼ぎながら自力で1年間勉強しなければならない可能性もある。1事例ではあるが本活動を通して高校卒業後の支援の必要性と有効性が得られたため、今後も個別のニーズに合わせて支援対象年齢外の子どもの支援していく予定である。

令和5年度は主に職員と有償ボランティアで特別教室を運営したが、今後は特別教室への理解を広げ、より多くの無償ボランティアにも協力してもらえよう努めていく。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

◆ 特別教室に参加した子どもの感想

- ・ 以前の勉強より、一層勉強の仕方を見直してもらったことで理解しやすくなった。
- ・ 学校で聞けなかった、勉強について分からないことが聞けて、解決できたこと
- ・ 自分から勉強するようになった
- ・ 問題集等でわからなかったところがわかるようになった
- ・ 北辰テストで、授業でやったところの内容がでた
- ・ 北振テストの点数が少し上がった
- ・ 入試科目の成績が少しずつ上がってきたこと
- ・ 家よりも集中でき、たくさん進めることができた

- ・ 授業の内容が分かったとき、自信を持って手をあげられるようになった
- ・ 勉強の仕方がわかった

◆特別教室の参加したボランティアの感想

- ・ 子どもたちと学習支援のボランティアの方々及び支援員の方も一致団結していてやりがいがあった
- ・ 学ぶ姿勢も、教える姿勢も、お互いにしっかり向き合っているように感じた
- ・ 子どもの伸びる姿が見られた
- ・ 子どもたちと接することで逆に自分が元気をもらえることがあった
- ・ 子供達が熱心に勉強している姿を見て やりがいがあると思った

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

生活困窮者自立支援法では、学習支援は自治体の判断に委ねられ経費補助も十分ではない。行政の支援システムでは、効率的運営と行政的成果が優先され、経費積算では数値による支援活動の「見える化」が求められる。しかし、粘り強く繰り返される家庭訪問を媒介とした信頼関係構築のための初動経費や個別学習ニーズにきめ細かく対応する支援のありようは、支援にとって最も重要なファクターでありながら数値化することが難しい。また、行政は、そうした「見えない」経費の存在には関心が薄い。本助成は、自治体からの委託の制約を超えた学習支援の手を広げられ、生活困窮者家庭の進学不安を軽減することにつながることができた。結果として、生活困窮者世帯では難しい浪人生活と学習を支えることで国立大学医学部合格者を出すという成果をはじめとして、300人以上の中3生合格者を輩出できた。これは、対費用効果の観点からも極めて大きな成果である。それは、財政的支援によって困難を抱えた子どもたちの未来は確実に開けることを示している。

（埼玉大学 名誉教授 山口和孝）